

**<ジブチ事業> 「家庭訪問から見える、新型コロナウイルス下の難民キャンプのいま」**

ICAN ジブチ事務所  
崎元 大志  
～プロフィール～

開発学修士課程修了後、カンボジアで外部委嘱員、パレスチナでNGO職員として勤務。2020年2月より現職。

アイキャンでは、ジブチ国内の難民キャンプで家庭訪問活動を行っています。子どもたちや保護者を訪問し直接話をすることで、家族の関係性を理解したり悩みを聞き取ったりし、問題が見つかった場合にはカウンセリングの実施や、適切な機関に報告するなどして、問題を早期発見・対応することが家庭訪問の狙いです。

実は、ここジブチの活動も、新型コロナウイルスの影響で3月に外出禁止が発令されたことにより、平時は月300件以上実施していた家庭訪問を縮小する判断となりました。しかし、親のいない孤児や、難民キャンプに取り残されてしまった子どもなど、外出制限の影響でより深刻な問題が予想される家庭には、月1~2回程度の家庭訪問と電話での状況確認を継続し、様子をうかがうようにしました。子どもたちは「外出できないことでストレスを感じることもある」などの悩みがあるものの、「電話でアイキャンスタッフと話ができる時間が楽しい」と喜んでくれていましたが、一方でアイキャンスタッフの間では「顔が見えず子どもたちの状況を正確に把握できているか不安だ」との声もあり、もどかしさを感じる期間でした。

7月になって感染状況が落ち着いてきたため、電話での聞き取りが主だった家庭訪問を直接訪問へ戻し、対象も広げて家庭訪問を実施したところ、これまで見つからなかった新型コロナウイルス下特有の問題が明らかになりました。ホルホル難民キャンプに住む母親は「経済状況がますます苦しくなり、子ども全員に十分な食糧を得ることができずとても困っている」と話しました。外出制限によるストレスも悪影響をおよぼしており、社会的弱者である子どもたちに対する身体的暴力や性的暴力が多発し、未成年で妊娠した女の子が増えたことも分かりました。外出制限で思うように活動できない期間にさまざまな問題が起こっていましたが、直接そこに暮らす人びとと話すことで問題の把握ができたことは、解決のための第一歩であり、家庭訪問の成果であると言えます。



今後これらの問題に対し、現地パートナー団体と連携を図りながら、特に暴力の防止策に力を入れていきます。被害を受けた子どものケアはもちろん、子どもたち自身が危険を感じた場合に、安全なところに駆け込んで助けを求めるなど、自分の身を守るために何が出来るのか、そして、周りの大人やコミュニティには、助けを求める子どもを見かけた場合には手を差し伸べるよう啓発活動を行なっていくことも、アイキャンの重要な役目です。ひとりでも多くの子どもたちが安心して安全に生活を送れるよう、これからも真摯に難民キャンプでの活動を続けていきます。

**ある日のスケジュール**

(日本へ退避中)

- 13:00 事業進捗確認
- 14:00 メール確認
- 16:00 現地 UNHCR と Web 会議
- 17:00 現地職員との Web 会議(個別)
- 18:00 活動報告書
- 20:00 全体 Web 会議
- 21:00 会計資料作成
- 22:00 退勤

**フィリピン事業**

7月/マニラ (フィリピン)

**COVID-19の影響で困窮する世帯へ食糧を配布**

マニラ首都圏では、新型コロナウイルスの影響を受けた人びとへの食糧配布を継続しています。7月は77世帯へ、お米や缶詰などを提供しました。外出制限は一部緩和されているものの、トンド地区に

住む女性は「建設業の仕事をしていた主人が仕事を失ってしまい、生活が苦しかったので本当に助かります」と話しました。

**イエメン事業**

7月/サナア (イエメン)

**深刻なイエメンの物価高騰と粉ミルクの提供**

イエメンでは長期化する紛争と、新型コロナウイルスの影響で物価が高騰しています。先月同様、幼児対象に粉ミルクを提供した際には、保護者から「必需品を買うことがさらに困難で、物によっては2倍以上の価格で売られていることもある。

買うことができなくなった子どもたちの粉ミルクを提供してもらえるのは、本当にありがたい」との声が聞かれました。

**ボランティア・寄付活動推進事業**

7月/名古屋 (日本)

**街頭募金で使用する募金箱づくり**

今月もアイキャン日本事務局では18日(土)に街頭募金活動を実施し、計22名のボランティアさんにご参加いただきました。前週には、学生ボランティアさんが街頭募金で使用する募金箱を作成しました。街頭募金を担当する事務局イ

ンターンは「準備段階から関わってくれることは本当にありがたい、一緒に魅力的なものを作り上げたい」と意気込みを語りました。

**日本事業 (長野)**

7月/長野 (日本)

**修繕した被災家屋が、地域に根づく集会場へ**

7月5日に長野市穂保地区で、住民が集まってイベントや地域活動ができる「ほやすみ処」がオープンしました。アイキャンの家屋修繕活動で修繕した家を、集会場として活用しています。地域の住民の方からは「ほやすみ処でラジオ体操部を

再開しようと思っている」「畑の休憩場所が流されてしまったがここで休憩ができるから良かった」との声をいただきました。